

単純ヘルペス感染症

愛媛医療生協

単純ヘルペスウイルス (HSV) はヘルペスウイルス科に属するウイルスで、抗原性の違いにより 1 型と 2 型に分類されます。1 型は主として顔・口唇・眼・皮膚に、2 型は外陰部や尿道に病変を生じます。乳児期以降の HSV 初感染では不顕性感染が多く、ひき続いて神経上行性に三叉神経節や腰仙髄神経節の知覚神経節細胞に移行し、潜伏感染します。

再発の誘因が明らかでない場合もありますが、日光、疲労、全身衰弱などに伴って HSV の再活性化が起こり、神経下降性に皮膚粘膜に到達して、そこでウイルスが増殖して水疱ができます。

初感染の時期は、1 型が小児期であるのに対し、2 型では思春期以後が多いです。

【潜伏期】 2 日～2 週間

【感染経路】 唾液や口唇病変部への接触感染

【主な臨床像】

I. ヘルペス性歯肉口内炎

生後 6 ヶ月～3 歳の乳幼児に好発し、主に HSV-1 型の初感染の病像です。潜伏期は 2～7 日で、発熱（しばしば 39℃台の高熱）が続きます。顎下リンパ節の有痛性腫脹、咽頭後壁所見に続いて、頬粘膜・舌・口唇内面・口蓋粘膜・歯肉に発赤腫脹が生じ、次いで小水疱が出現します。やがてそれが破れてかさぶたをつくります。歯肉は強く発赤腫脹し出血しやすく、強い痛みのためによだれが著明で、経口摂取が不能となり、脱水症状を起こすこともあります。通常、7～14 日で治癒します。

II. カポジ水痘様発疹症

湿疹、またはアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患のある 0～5 歳の乳幼児に、HSV が初感染して起こります。好発部位は、顔面・頸部・上胸部・上肢などです。かぜ様症状（発熱、食欲不振）、不機嫌で始まり、無数の小水疱が出現し、融合して母指等大になります。皮膚病変は、発赤が強くなり同時に紅暈を伴い中心臍窩を有する小水疱があるのが特徴です。やがて膿疱、びらん、かさぶたと推移します。2～3 週で治癒します。予後は良好なことが多いのですが、3 歳以下の乳幼児や免疫不全のあるものでは発熱などの全身症状が強くなり重篤に陥ることがあります。ほとんどは HSV-1 型によりますが、2 型のこともあります。

III. 口唇ヘルペス

口唇あるいはその周辺に軽い刺激感を伴う小紅斑や小丘疹が生じた後、小水疱を形成します。膿疱化を経て数日後にかさぶたとなり、1～2 週

で治癒します。しばしば再発を繰り返します。

IV. その他

新生児ヘルペス・ヘルペス脳炎・ヘルペス性瘰癧・ヘルペス性角結膜炎・性器ヘルペスなどの臨床病型があります。

【治療】

乳幼児以降の HSV 感染症の軽症例では、皮膚病変に対してビダラビン軟膏を塗布します。中等症ではアシクロビルの内服（1日4回、5日間）、重症例や免疫不全児、内服困難な場合は、アシクロビルを入院の上、点滴静注（1日3回、7日間）します。効果が不十分の場合はビダラビンに変更します。

現在、使用できるワクチンはありません。アルコールで不活化できます。

【日常生活の注意】

①食事（口内炎のある時）

プリン、ゼリー等、飲み込みやすく、口当たりのよい食べ物を、無理強いせず、何回かに分けて与えてください。乳酸菌飲料やオレンジジュース類は痛みを増すことがあります。

食後はぬるめのお湯やアズレンでうがいをし、口の中を清潔にしてください。うがいができない子はお茶を飲むとよいでしょう。

②清潔

高熱のある時や、元気のないときは避けてください。

歯磨きは歯肉の炎症がなくなるまでしないでください。

③感染予防

タオルなどを家族の人が一緒に使うことは避けてください。唾液などからうつるため、食器は別にしてください。患部を触った時にはよく手を洗ってください。また、見かけは元気そうでも、症状が落ち着くまでは外出を控えてください。

【再発の予防】

①再発のきっかけ

紫外線の浴びすぎや寒冷などの強い刺激がきっかけとなることがあります。また、極度の疲労や精神的ストレスなども、免疫力を低下させるため、再発を招く原因となります。

②再発のきざし

皮膚や粘膜にピリピリ、ムズムズといった違和感、熱を持った感じ、痛みなど

③再発の予防

栄養バランスのよい食事をとる、十分な睡眠をとる、適度な運動をするなど、日頃から心がけましょう。

(2020. 7. 12)